

平成31年2月・吉日

関係者各位

むぎのめ子ども発達支援センターりんく
園長 大迫 より子

「児童発達支援自己評価」(事業所向け)の結果について(報告)

梅花の候、皆様におかれましては、ますますご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。

さて、当事業所における「児童発達支援自己評価」(事業者向け)について自己評価を過日実施いたしました。

その中の環境・体制整備、業務改善、適切な支援の提供について等、職員間での情報交換や共有を行い、同じ方向を目指していることを、再度職員全体で確認することができました。

本園の課題として、『職員の配置数は適切であるか』の項目において「時々職員の体制が少ないと感じる時がある」と回答がありました。施設の運営基準に準じた職員の配置をしておりますが、生活面やあそび、コミュニケーションにおいてより丁寧な支援が必要なお子さんが多いため、次年度におきましては運営基準より多く職員を配置する予定です。また、これまで通り、ひとりひとりの子どもの発達課題、発達段階に応じた生活とあそびの支援・集団づくりについて、研修や実践検討などの学習を重ね、子どもたちひとりひとりが力を発揮し、主体的に生活やあそびに向かうことができるような療育の中身づくりを目指していきたいと考えています。

今後も、様々な意見を聞く中で、職員、保護者(家族)と共に理解を深め、子どもたちのよりよい成長発達を願い、一歩ずつ取り組みをすすめながら事業所づくりをしていきたいと考えておりますので、これからも多くの方のご協力をお願いいたします。